

グループホームやすらぎ(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 19 年 11 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	1872000276
法人名	社会福祉法人 織田やすらぎ会
事業所名	グループホームやすらぎ
所在地	福井県丹生郡越前町織田83-24-1 (電話) 0778-36-1170

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2-3-22		
訪問調査日	平成19年9月19日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】 (平成年 9 月 6 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 6 人、非常勤 13 人、常勤換算 12.8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 ~ 30,000 円	その他の経費(月額)	7,800 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	360 円
	夕食	360 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

(4)利用者の概要 (9 月 6 日 現在)

利用者数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5	要介護2	2
要介護3	7	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	1
年齢	平均 83.4 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	越前町国民健康保険 織田病院、丹原歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、豊かな自然に囲まれ、のどかな集落の中に位置している。ホーム内には自然の光と風が十分に取り入れられ、心地よく感じられる。緑の多い中庭を隔てて同法人の特別養護老人ホームが設置され、相互の行き来は自由になっている。また、外へ出ることも自由で、職員が付き添い日常的に外出の支援がなされている。近くにはホームの畑があり、入居者と職員が作った野菜を漬物にしたりして、献立に加えるなど食事を楽しむ工夫も見られる。入居者が普段過ごす食堂の窓からは、広々とした山の緑が望め、気持ちのよい時間と空間を作り出している。管理者と職員は「今日は今日のためにある」という法人の理念の下、「その人らしい暮らし」と「楽しく、くつろいだ一日」の実現に日々努めている。実際のケアの場面では、職員が入居者に寄り添うようにして優しく話す姿が見られ、入居者との会話からもホームでの居心地や家庭的な雰囲気にも満足している様子がうかがえた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価において、特段の改善点は指摘されていないが、トイレの消毒薬の臭いや 食事用テーブルの高さにその後の改善が見られる。なじみの家具や思い出の品々の持ち込みを積極的に進めることについても、ホーム側から家族への働きかけが見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で自己評価の各項目についてよく話し合われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議では、活動内容の報告とともに活発な意見の交換が行われている。会議の内容は議事録としてきちんと残されている。町担当者との連携が良く取られているが、一方で地域代表者で毎回は出席できない方もいるため、ホームでは今後、地元町内の代表者に出席を要請するなどして、その対応を検討する予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族会や提案箱の設置で、家族の意見を運営に反映させる仕組みがある。現在、家族からの苦情はほとんどないとのことであるが、苦情等を気軽に伝えやすい雰囲気づくりや機会づくりも期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元老人会へ交流会の招待状を出してホームに来てもらうなど、積極的に交流を図っている。また、近くの畑を貸してもらったり、野菜を分けてもらったりするなど普段から近隣住民との交流がある。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今日は今日のためにある」という法人の理念の下、「その人らしい暮らし」と「楽しく、くつろいだ一日」の実現を運営方針としている。		現在、法人の理念がそのまま使われているが、グループホームが地域密着型サービスに位置づけられたことを踏まえて、地域との交流と連携を重視した事業所独自の理念を作りあげることも望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を職員全体が共有するほか、今までの生活をくずさないで、その人らしい生活が出来るように職員は心がけている。		
		2 地域との支えあい			
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで茶房を開いて地元老人会を招待するなど、積極的に交流を図っている。また、近くの畑を貸してもらったり、野菜を分けてもらったするなど普段から近隣住民との交流がある。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で評価に取り組んでいる。また、前回の外部評価の結果をもとに積極的に改善を進めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、生活ぶりをビデオで見てもらったり、活動内容を報告したりして、ホームを理解してもらえよう積極的に取り組んでいる。一方的な報告にとどまらず、活発な意見交換がなされており、内容の濃い議論がなされている。外部評価結果の報告や反省から、今後の改善に向けての話し合いもなされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席のほか、法人として町担当課との関係が密接であり、積極的に実情の報告や相談がなされ、良い連携が取られている。		町の介護相談員派遣事業が来年からスタートする予定であり、介護相談員の積極的な活用を通じて、サービスの質の向上に取り組まれることを期待したい。
		4 理念を実践するための体制			
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族への便りを出して、健康状態、活動状況、金銭の出納等を報告するとともに、積極的に行事への招待を行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や提案箱の設置で、家族の意見を運営に反映させる仕組みがある。		現在、家族からの苦情はほとんどないとのことであるが、提案箱を分かりやすい場所に設置したり、ホーム以外にも苦情を申し出る場所があることを、家族に積極的に伝えるなど、苦情等を気軽に伝えやすい雰囲気づくりや機会づくりも期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、最小限に抑えられている。職員は異動しても同じ敷地内にいるため交流がとれ、ダメージが少ない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用時に新人研修が1週間行われている。その後も継続して月に1度は内部研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の研修等に管理者が出席し、情報交換や交流を行なっている。		職員も外部研修等に積極的に参加したり、同業者との訪問活動により、交流を進めることも期待したい。
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にケアマネジャーを通じて状況等を十分把握したり、職員が自宅を訪問して面談や本人の話をじっくり聞いて馴染みの関係を作るほか、利用前の体験入所を行なって、雰囲気馴染める支援をしている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と畑仕事をしたり、漬物を漬けたり、味噌を仕込んだりすることを通じて、共に働き、共に支え合い、様々な知恵を学んでいる。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度の寄り合いで入居者の希望や意見を聞いている。普段の生活では入居者自身に好きなことを選んでもらうようにしたり、得意なことをしてもらったりしている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段から入居者が何に困っているか、どうしたいかを、職員を通じて把握するとともに、家族の意見も聞くように努めている。毎月開かれる会議の中で、把握した本人や家族の意向や希望をもとに介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをするとともに、入居者の状況変化に応じて見直しをすることになっている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特別養護老人ホームやデイサービスを入浴やリハビリに活用している。看護師を職員として配置し、異常が認められたときはすぐに受診して早期治療を行うことで入院を回避している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との連携を大切にしている。普段の受診は家族の付き添いと、受診結果は職員が家族から聞いて記録するほか、直接病院へも問い合わせている。緊急時には職員が付き添って通院している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、かかりつけ医や家族と話し合い連携を取りながらケアにあたることとし、終末期についてもホームでの終末を望まれば応じる方針がある。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかに適度な大きさの声で丁寧に話しかけており、入居者一人ひとりの尊厳に十分配慮がなされている。入居者の記録は事務所内に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその時の状態や希望に沿って一日を過ごしてもらっている。日常的に外出支援がなされており、地元囲碁クラブに参加している入居者もいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人ができることを見極めながらできることをしてもらい、入居者と職員と一緒に準備をし、同じ食事を楽しく食べている。また、畑で採れた野菜や自分たちで作った漬物などが食卓に出されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望すれば毎日可能であり、順番は希望する人から入れる。入りたくない人には無理強いせず、機嫌の良い時を見計らったり、言葉のかけ方を工夫したりして入ってもらっている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者に対して、裁縫や家事、畑仕事等自宅で行っていたことと同様の役割を担ってもらえるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近くの公園や畑へ出かけている。その他に散歩や買い物、入居者の好きなおところへ出かける支援もなされている。花見、いちご狩りなどの季節の行事での外出も多い。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践している。入居したばかりの方が度々出て行ってしまような場合にも、職員を多く配置して対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元区長、地区消防団、事業所で三者協定を結んで災害時に備えている。消防訓練は夜間の火事を想定して夕方、職員が一旦自宅に戻ってから、入居者全員と近所の住人も参加して行っている。また、消防設備点検は毎月行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎食チェックしている。食べにくい副食はあんかけにするなど、工夫がなされていた。法人内の栄養士が献立を立てており、栄養バランスも適切である。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は落ち着きがあり、食堂からは山の緑が望め、気持ちよく過ごせる。また、涅槃会、ひな祭り、花見、ほう葉飯づくり、菖蒲湯などの季節の行事を多く行ったり、普段から畑の世話をすることで、日常的に季節を感じる事ができている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口に手作りの暖簾をかけたたり、好みに応じて家具の配置を決めている。また、職員は家族に対して自宅で使用していた品を持ってきてもらえるようお願いしており、かわいいお孫さんの写真が飾ってある居室も見受けられた。		使用していない冬の布団がむき出しで置かれている居室があった。それぞれに居室に暖かみと落ち着きを感じられる工夫を期待したい。

■は、重点項目。

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「今日は、今日の為にある」をもとに、主役は、お年寄り、私達は裏方を合言葉に楽しく愉快的日々を送って頂くよう努力している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、法人の朝礼に参加することで理念を共有する。また、理念を共有したうえで、グループホームの朝夕のミーティングの際に、実践に向けて唱和している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や地域との交流会、避難訓練の開催により、理解してもらえるよう努めている		特に地域の方に気軽にきて頂ける様、地域との交流会の回数を重ねていきたい
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者が、散歩に出かけた時などは、声掛けに心掛ける。又、地域の方との交流会を開き、当施設に気軽に立ち寄りしてもらえる雰囲気作りに努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	喫茶を開催し、地元の方と交流を持っている。また、囲碁サークルに参加している方もいる		グループホームとして地域の活動に参加出来る事があれば、協力したいと考えている。地域との交流、認知症ケアサポーター養成講座を実施予定している
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケア研修を行い、地域に貢献する事が出来ないか、話し合いをもっている		家で、困っている人の相談員となれないか。具体的には、ケアマネジャーに家族の悩みを打ち明けられる体制をとりたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする事で、今まで積み重ねてきた介護内容を振り返り、外部評価で更なる改善を考えている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年8月より2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、取り組みなどの状況を報告しサービスの向上に活かしている。また、具体的な改善点として、家族への月1回の状況報告を行うことにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人を通じて、行き来する機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいる		今後、市町村より情報を貰い、より高いサービスの質の向上に取り組みたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、いない		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待についての研修に参加報告し、防止に努めている		
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所の前後は、十分に説明を行い納得してもらうよう努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、町の介護相談員事業がないため、反映されていないが、月1回の寄り合いの際に、利用者の意見が出やすいような雰囲気作りには心掛けている		外部者として、町の介護相談員事業が来年度から設けられるので、来年度から反映させたい
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回は、必ず個人別に健康状態、活動状況等、家族に報告している。又、面会時には、日頃の生活ぶりを話している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、家族の意見等聞くように心掛けている。また、提案箱の設置や家族会を設けて、家族の意見を聞いている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で職員の意見や提案を開き、利用者の活動に反映させている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	パート職員を導入しているので、必要な時間帯や行事、研修時には、手厚く配置している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別養護老人ホーム等と正規職は入れ替わるが、同一敷地内であるため、普段から職員と利用者が交流しており、ダメージは少ない		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を行い、介護のノウハウを習得できる機会を多く確保している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の研修に参加しているが、地域の同業者との訪問活動は、現在行っていない		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回大学の先生によるスーパービジョン。年に1度管理者とのケアに関する意見交換会を行っている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回人事考課を行い、個々の努力や実績、勤務状況を把握している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所前の状況やケアマネを通しての相談内容を把握し、本人との面談も通して、馴染みの関係を作るよう努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所前にグループホームに来所してもらい、グループホームについて理解してもらおう。また、職員はゆっくり話を聞くよう努めている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の時点でケアマネと連携を取りながら対応している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に体験入所を行い、グループホーム内を見学、相談に応じ、雰囲気馴染める様支援している。又、事前に自宅のほうへ日頃の生活ぶりを見に行っている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	味噌、漬物、梅干など昔ながらのものを作ることで、利用者から学び、支え合う関係を築いている。また、日々の生活の会話で、利用者は、職員の良き助言者となっている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は、普段から、利用者皆と顔合わせを行い、職員と共に支えあっている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回のお知らせの時、本人の生活状況の様子を書き、状態を知らせている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の生活スタイルを継続し、神社や寺等へ外出したり、趣味を楽しんでいる		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の準備や畑仕事の時間を共有し、一人ひとり孤立せずに、お互いを認め合い、助け合いながら生活している		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする家族は、現在はいないが、いつでも対応する準備はできている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の寄り合いを行い、利用者の希望や意見を聞き、希望に添えるように努めている。外出などは、自由に行っている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会時などに利用者、家族からの聞き取りを行い、少しでも普段の暮らしの把握に努めている		自宅や馴染みの場所の写真より利用者の生活の環境などを知り、寄り添いながらコミュニケーションをとっていく
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方、心身状態は毎日の記録、連絡帳にて状態を把握し、職員間で伝達している		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を取り入れ、日頃の生活の中で介護計画作成に努めている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた利用者に対しては、職員間で話し合い、計画を作成している		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜勤の様子を個別に記録しており、全員で共有している。また、モニタリングを行い、ケアプランに活かしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特別養護老人ホームやデイサービスでの入浴を利用し、利用者の身体活動に応じたサービスを行っている。また、リハビリにも参加している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	囲碁クラブに参加している。また、避難訓練等を行い、地域の方や消防署の協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特別養護老人ホームやデイサービスへ行き、入浴などを行っている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより、運営推進会に参加してもらっている。また、支援状態の認知症の方については相談しながら、連携をとっている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との連携を大切にしており、月1回の訪問診療往診もお願いしている。また、定期的な受診も行っている		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診時には、職員が付き添ったり、状態の報告をしている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師とは、常に状態報告を行い、相談している。協力病院やかかりつけ医の看護師とも協働している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、定期的に見舞う。また、病院関係者との情報交換を行い、早期退院に努めている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合は、職員、家族、かかりつけ医と話し合い、連携を取りながらケアに当たっている</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末を迎えた人はいないが、生活支援を基盤として、昔馴染んだ音楽を聞かせ、脳の活性化を図っている。かかりつけ医とは、常に連携を取り合っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特別養護老人ホームへの入所が決定した場合、情報提供、関係者間で十分に話し合いの機会をもっている。又、職員と馴染むように行き来している</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人の生きてきた歴史を尊重し、人生の先輩として敬い、接する</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入浴時の衣服や外出先の選択等、自己決定出来る様に働きかけている。又、月1回の寄り合いにて意見表出している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課に時間の決めはなく、その人のその時の状態に応じ、要望を聞き、利用者の希望に添って支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出時、理容店、美容院に行く。また、訪問散髪をお願いすることもある</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>それぞれが、分担しながら、食事の準備をしている。梅干、漬物、うどん作りなど自分たちが作った野菜を使い料理している</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>併設の特別養護老人ホームにある自販機や、買い物に出かけて自由に購入している。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、トイレへの声掛け、誘導、介助はこまめに行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実施しているが、日中いつでも入浴することが出来る様になっている。又、祝日には、ディサービスの大きなお風呂に入ってゆったりと過ごしてもらう		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	軽体操など取り入れ、くつろげるような環境づくりに努めている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家でされていた縫い物や畑仕事、手芸などをしてもらい、作る喜びを持ってもらっている。囲碁、将棋を楽しむ方もいる		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もおり、外出した時の支払は、自分でしている人もいる		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	劔神社や近くの不動明王、東公園などには、日常的に出かけている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1ヶ月に1回は、つつじ見学、いちご狩り、ショッピング等に出かけている。家族にも参加をお願いしている。個別に出かけることもある		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、家族への電話は自分でいつでもしてもらう		年1回年賀状を利用者自身が書き、1年お世話になった方に出し、書くことに慣れてもらう
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ソファを置き、ゆったりと和めるような空間作りに努めている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないということでケアに取り組んでいる		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、風鈴、入り口には鈴を設置し、鍵はかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	大きな声は出さず、見守る様にして安全の確認をしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ハサミは使い終わったら、手の届かない見えないところに保管。針は、本数の確認を必ずする		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間では、研修を行い知識を学ぶ。利用者も参加し、避難訓練を行っている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法を学び、急変に備えている。並びに、緊急連絡体制をとっている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、夜間を想定した地域の人々の参加で、避難訓練も行っている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランを家族に説明し家族の希望、グループホームの方針の話をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェック、排泄のチェックを行い、異変の発見に努めている。すぐに看護師に連絡、指示を仰いでいる		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の元、看護師が内服薬管理しており、症状の変化については、直ぐに看護師に連絡している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として食物繊維の多い物、また、畑で作った野菜を食べたり、好みの飲み物を十分に摂れるようにしている。並びに毎日の掃除や活動時、階段の昇降、軽体操を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後は歯磨きの実施を声掛けしている。バイタル測定時には、身体チェックと共に、口腔内チェックも行っている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの栄養士の指導で、栄養のバランスを考え、食べる量、水分量は、毎食チェックを行い、体重の増減にも気を配っている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいは、日常的に行っている。また、インフルエンザの注射は実施している。朝夕2回は、次亜塩で手すり、椅子、便器等拭いている。また、インフルエンザ、ノロウイルスの時期には、面会者にも予防を推進している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、食洗器使用、まな板は、日を決め消毒し、ふきんは毎日漂白剤に浸し、洗っている。また、新鮮な食材を使用し、食事作りチェックもしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鉢植えを飾り、利用者と共に草むしりや掃き掃除をこまめに行っている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには、利用者と育てた花を飾り、季節感を取り入れている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあり、くつろぐことで出来る様にしている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口には、手作りの暖簾をかけている。また、部屋の配置を換えたり、家での馴染みの品を持ってきて下さる様をお願いしている		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間、換気扇設置。個人に合わせて温度調節を行っている。掃除の時は、窓を開けて換気している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーになっており、安全である。しかし、場所によっては階段もあるが、生活リハを行って自立支援に努めている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しても指摘するようなことはせず、失敗を感じさせない様に対応している。例えば、食材切りなどは1対1で行う		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、中庭では、洗濯干し、布団干しなどを行い、季節に応じ、大根干し、つるし柿などを作っている。花壇では、花を育て楽しんでいる		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・衛生面で、手拭タオルは、1回づつ洗濯、次亜塩素酸での床や手すり、便器等毎日拭いており、手洗い励行、感染症対策をしている。
- ・医療面で、訪問診療、往診を月1回は行っている。体調不良者に対しては、昼夜を問わず、医療機関に受診している。
- ・外出支援、(囲碁クラブ、劔神社へのお参り、外食会等)
- ・面会、外出は、比較的自由である。
- ・畑仕事を通じて、作る喜び、収穫の喜びを皆で分かち合える。また畑仕事を職員に教えることで、昔の記憶や自信を取り戻す。

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「今日は、今日の為にある」をもとに、主役は、お年寄り、私達は裏方を合言葉に楽しく愉快的日々を送って頂くよう努力している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、法人の朝礼に参加することで理念を共有する。また、理念を共有したうえで、グループホームの朝夕のミーティングの際に、実践に向けて唱和している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や地域との交流会、避難訓練の開催により、理解してもらえるよう努めている		特に地域の方に気軽に来て頂ける様、地域との交流会の回数を重ねていきたい
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者が、散歩に出かけた時などは、声掛けに心掛ける。又、地域の方との交流会を開き、当施設に気軽に立ち寄りもらえる雰囲気作りに努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	喫茶を開催し、地元の方と交流を持っている		グループホームとして地域の活動に参加出来る事があれば、協力したいと考えている。地域との交流、認知症ケアサポーター養成講座を実施予定している
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケア研修を行い、地域に貢献する事が出来ないか、話し合いをもっている。		家で、困っている人の相談員となれないか。具体的には、ケアマネジャーに家族の悩みを打ち明けられる体制をとりたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする事で、今まで積み重ねてきた介護内容を振り返り、外部評価で更なる改善を考えている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年8月より2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、取り組みなどの状況を報告しサービスの向上に活かしている。また、具体的な改善点として、家族への月1回の状況報告を行うことにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人を通じて、行き来する機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいる。		今後、市町村より情報を貰い、より高いサービスの質の向上に取り組みたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対象者はいるが、入所間もないため現在活用していない		今後、成年後見制度の支援を考えている
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待についての研修に参加報告し、防止に努めている		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所の前後は、十分に説明を行い納得してもらうよう努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、町の介護相談員事業がないため、反映されていないが、月1回の寄り合いの際に、利用者の意見が出やすいような雰囲気作り心掛けている		外部者として、町の介護相談員事業が来年度から設けられるので、来年度から反映させたい
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回は、必ず個人別に健康状態、活動状況等、家族に報告している。又、面会時には、日頃の生活ぶりを話している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、家族の意見等聞くように心掛けている。また、提案箱の設置や家族会を設けて、家族の意見を聞いている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で職員の意見や提案を開き、利用者の活動に反映させている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	パート職員を導入しているので、必要な時間帯や行事、研修時には、手厚く配置している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別養護老人ホーム等と正規職は入れ替わるが、同一敷地内であるため、普段から職員と利用者が交流しており、ダメージは少ない		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を行い、介護のノウハウを習得できる機会を多く確保している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の研修に参加しているが、地域の同業者との訪問活動は、現在行っていない		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回大学の先生によるスーパービジョン。年に1度管理者とのケアに関する意見交換会を行っている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回人事考課を行い、個々の努力や実績、勤務状況を把握している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所前の状況やケアマネを通しての相談内容を把握し、本人との面談も通して、馴染みの関係を作るよう努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所前にグループホームに来所してもらい、グループホームについて理解してもらう。また、職員はゆっくり話を聞くよう努めている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の時点でケアマネと連携を取りながら対応している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に体験入所を行い、グループホーム内を見学、相談に応じ、雰囲気にならめよう支援している。又、事前に自宅のほうへ日頃の生活ぶりを見に行っている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	味噌、漬物、梅干など昔ながらのものを作ることで、利用者から学び、支え合う関係を築いている。また、日々の生活の会話で、利用者は、職員の良き助言者となっている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は、普段から、利用者皆と顔合わせを行い、職員と共に支えあっている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回のお知らせの時、本人の生活状況の様子を書き、状態を知らせている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の生活スタイルを継続し、神社や寺等へ外出したり、趣味を楽しんでいる		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の準備や畑仕事の時間を共有し、一人ひとり孤立せずに、お互いを認め合い、助け合いながら生活している		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする家族は、現在はいないが、いつでも対応する準備はできている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回の寄り合いを行い、利用者の希望や意見を聞き、希望に添えるように努めている。外出などは、自由に行っている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会時などに利用者、家族からの聞き取りを行い、少しでも普段の暮らしの把握に努めている		自宅や馴染みの場所の写真より利用者の生活の環境などを知り、寄り添いながらコミュニケーションをとっていく
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方、心身状態は毎日の記録、連絡帳にて状態を把握し、職員間で伝達している		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を取り入れ、日頃の生活の中で介護計画作成に努めている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた利用者に対しては、職員間で話し合い、計画を作成している		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜勤の様子を個別に記録しており、全員で共有している。また、モニタリングを行い、ケアプランに活かしている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特別養護老人ホームやサービスでの入浴を利用し、利用者の身体活動に応じたサービスを行っている。また、リハビリにも参加している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練等を行い、地域の方や消防署の協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特別養護老人ホームやサービスへ行き、入浴などを行っている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより、運営推進会に参加してもらっている。また、支援状態の認知症の方については相談しながら、連携をとっている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との連携を大切にしており、月1回の訪問診療往診もお願いしている。また、定期的な受診も行っている		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診時には、職員が付き添ったり、状態の報告をしている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師とは、常に状態報告を行い、相談している。協力病院やかかりつけ医の看護師とも協働している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、定期的に見舞う。また、病院関係者との情報交換を行い、早期退院に努めている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合は、職員、家族、かかりつけ医と話し合い、連携を取りながらケアに当たっている</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末を迎えた人はいないが、生活支援を基盤として、昔馴染んだ音楽を聞かせ、脳の活性化を図っている。かかりつけ医とは、常に連携を取り合っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>特別養護老人ホームへの入所が決定した場合、情報提供、関係者間で十分に話し合いの機会をもっている。又、職員と馴染むように行き来している</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人の生きてきた歴史を尊重し、人生の先輩として敬い、接する</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入浴時の衣服や外出先の選択等、自己決定出来る様に働きかけている。又、月1回の寄り合いにて意見表出している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課に時間の決めはなく、その人のその時の状態に応じ、要望を聞き、利用者の希望に添って支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出時、理容店、美容院に行く。また、訪問散髪をお願いすることもある</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>それぞれが、分担しながら、食事の準備をしている。梅干、漬物、うどん作りなど自分たちが作った野菜を使い料理している</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>併設の特別養護老人ホームにある自販機や、買い物に出かけて自由に購入している。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、トイレへの声掛け、誘導、介助はこまめに行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実施しているが、日中いつでも入浴することが出来る様になっている。又、祝日には、ディサービスの大きなお風呂に入ってゆったりと過ごしてもらう		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	軽体操など取り入れ、くつろげるような環境づくりに努めている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家でされていた縫い物や畑仕事、手芸などをしてもらい、作る喜びを持ってもらっている。囲碁、将棋を楽しむ方もいる		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もおり、外出した時の支払は、自分でしている人もいる		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	劔神社や近くの不動明王、東公園などには、日常的に出かけている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1ヶ月に1回は、つつじ見学、いちご狩り、ショッピング等に出かけている。家族にも参加をお願いしている。個別に出かけることもある		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが、家族への電話は自分でいつでもしてもらう		年1回年賀状を利用者自身が書き、1年お世話になった方に出し、書くことに慣れてもらう
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ソファを置き、ゆったりと和めるような空間作りに努めている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないということでケアに取り組んでいる		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、風鈴、入り口には鈴を設置し、鍵はかけていない		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	大きな声は出さず、見守る様にして安全の確認をしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ハサミは使い終わったら、手の届かない見えないところに保管。針は、本数の確認を必ずする		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間では、研修を行い知識を学ぶ。利用者も参加し、避難訓練を行っている		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法を学び、急変に備えている。並びに、緊急連絡体制をとっている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、夜間を想定した地域の人々の参加で、避難訓練も行っている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランを家族に説明し家族の希望、グループホームの方針の話をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェック、排泄のチェックを行い、異変の発見に努めている。すぐに看護師に連絡、指示を仰いでいる		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の元、看護師が内服薬管理しており、症状の変化については、直ぐに看護師に連絡している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として食物繊維の多い物、また、畑で作った野菜を食べたり、好みの飲み物を十分に摂れるようにしている。並びに毎日の掃除や活動時、階段の昇降、軽体操を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後は歯磨きの実施を声掛けしている。バイタル測定時には、身体チェックと共に、口腔内チェックも行っている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別養護老人ホームの栄養士の指導で、栄養のバランスを考え、食べる量、水分量は、毎食チェックを行い、体重の増減にも気を配っている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいは、日常的に行っている。また、インフルエンザの注射は実施している。朝夕2回は、次亜塩で手すり、椅子、便器等拭いている。また、インフルエンザ、ノロウイルスの時期には、面会者にも予防を推進している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、食洗器使用、まな板は、日を決め消毒し、ふきんは毎日漂白剤に浸し、洗っている。また、新鮮な食材を使用し、食事作りチェックもしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鉢植えを飾り、利用者と共に草むしりや掃き掃除をこまめに行っている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには、利用者と育てた花を飾り、季節感を取り入れている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあり、くつろぐことで出来る様にしている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口には、手作りの暖簾をかけている。また、部屋の配置を換えたり、家での馴染みの品を持ってきて下さる様をお願いしている		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間、換気扇設置。個人に合わせて温度調節を行っている。掃除の時は、窓を開けて換気している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーになっており、安全である。しかし、場所によっては階段もあるが、生活リハを行って自立支援に努めている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しても指摘するようなことはせず、失敗を感じさせない様に対応している。例えば、食材切りなどは1対1で行う		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、中庭では、洗濯干し、布団干しなどを行い、季節に応じ、大根干し、つるし柿などを作っている。花壇では、花を育て楽しんでいる		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・衛生面で、手拭タオルは、1回づつ洗濯、次亜塩素酸での床や手すり、便器等毎日拭いており、手洗い励行、感染症対策をしている。
- ・医療面で、訪問診療、往診を月1回は行っている。体調不良者に対しては、昼夜を問わず、医療機関に受診している。
- ・外出支援、(剣神社へのお参り、外食会等)
- ・面会、外出は、比較的自由である。
- ・畑仕事を通じて、作る喜び、収穫の喜びを皆で分かち合える。また畑仕事を職員に教えることで、昔の記憶や自信を取り戻す。